

スケッチ中心線チュートリアル

スケッチ中心線_チュートリアル.zip



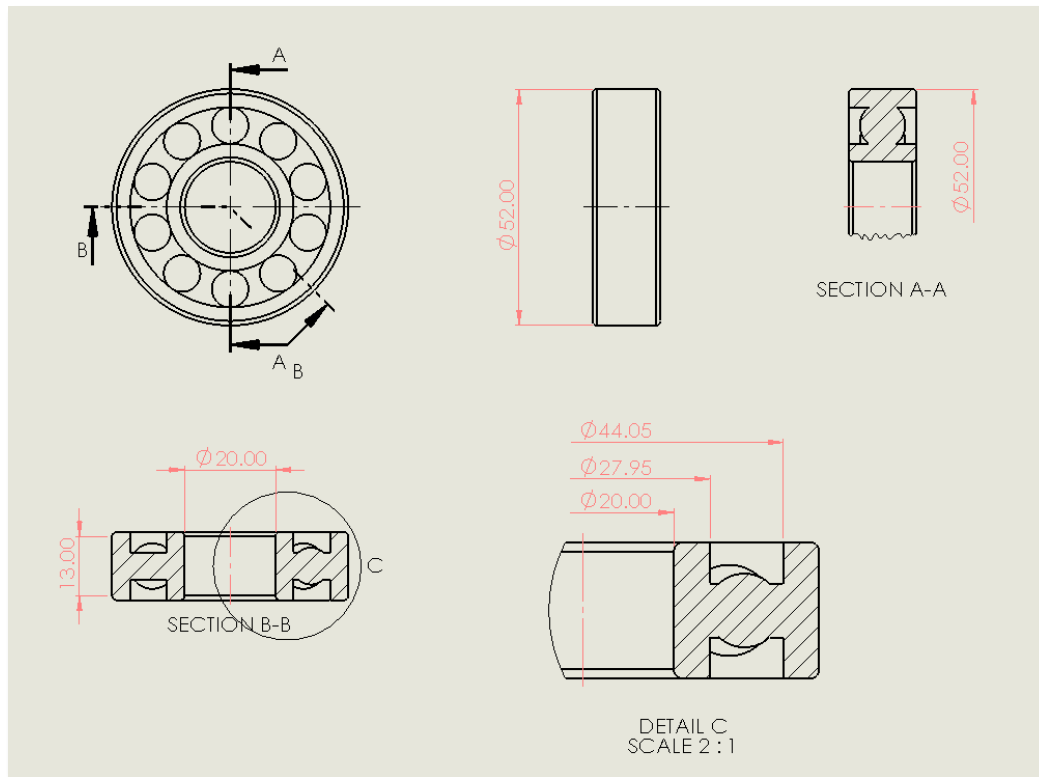
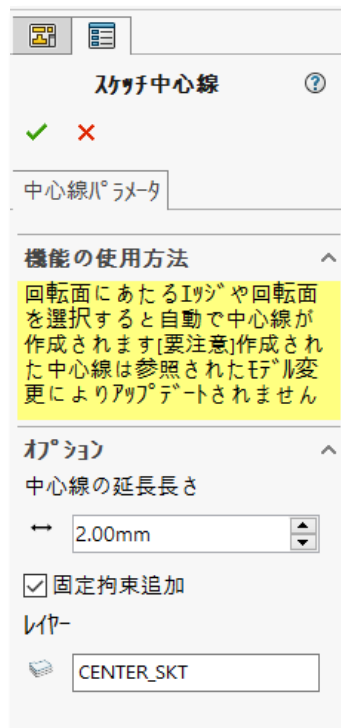
主な機能

- レイヤー設定で表示／非表示を管理
- 対称の直径寸法を簡単に具現する
- 回転面をクリックして簡単に中心線を入力

業務効果

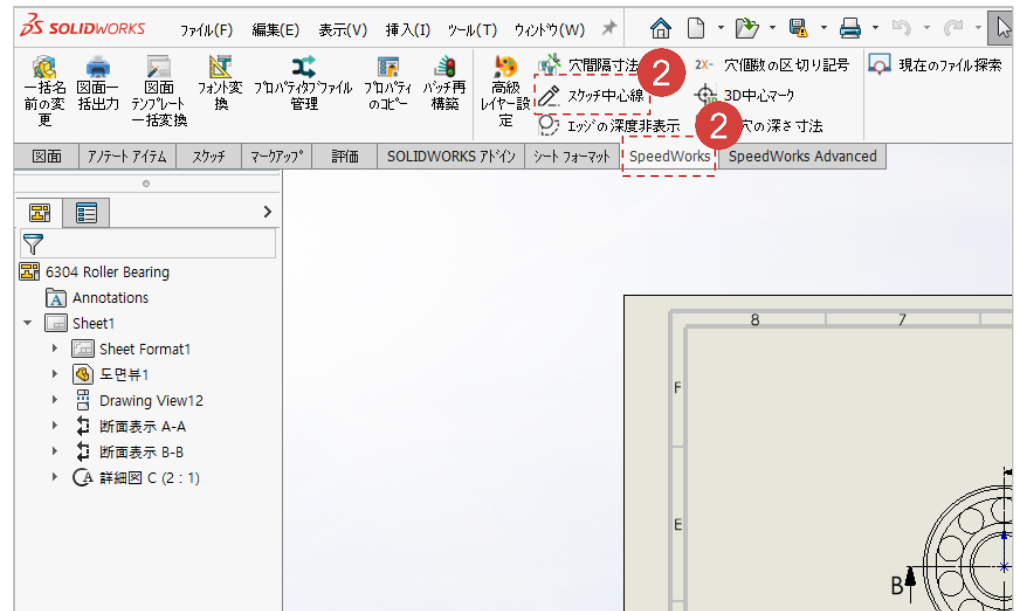
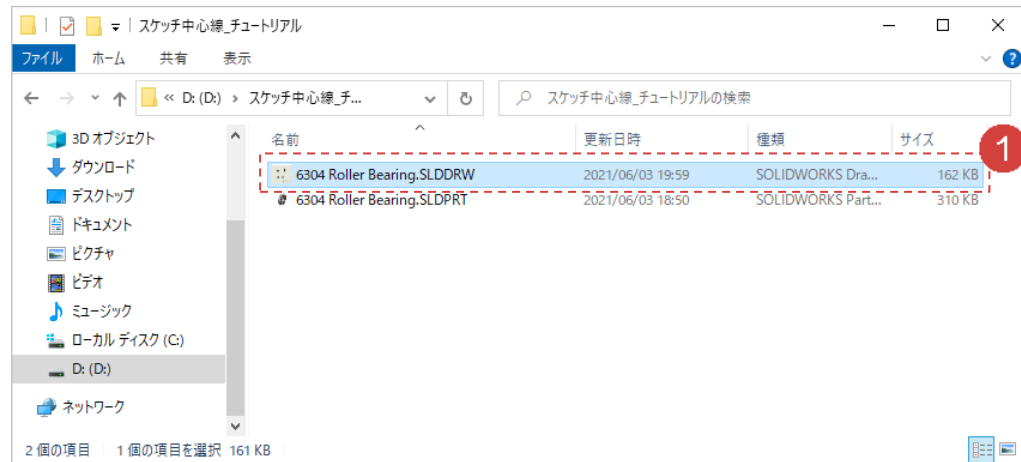
- 図面の部分断面図の活用性を高める
- スケッチタイプの中心線でさらに多様な編集ができる

🔦 レッスン目標：レッスンを真似しながらスケッチ中心線の使用法を学ぶ



① 例題ファイル中6304 Roller Bearing.SLDDRW を実行します。

② [SpeedWorks]タブ- [スケッチ中心線] を押してツールを実行します。



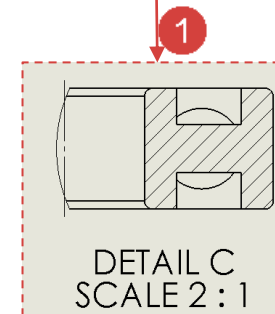
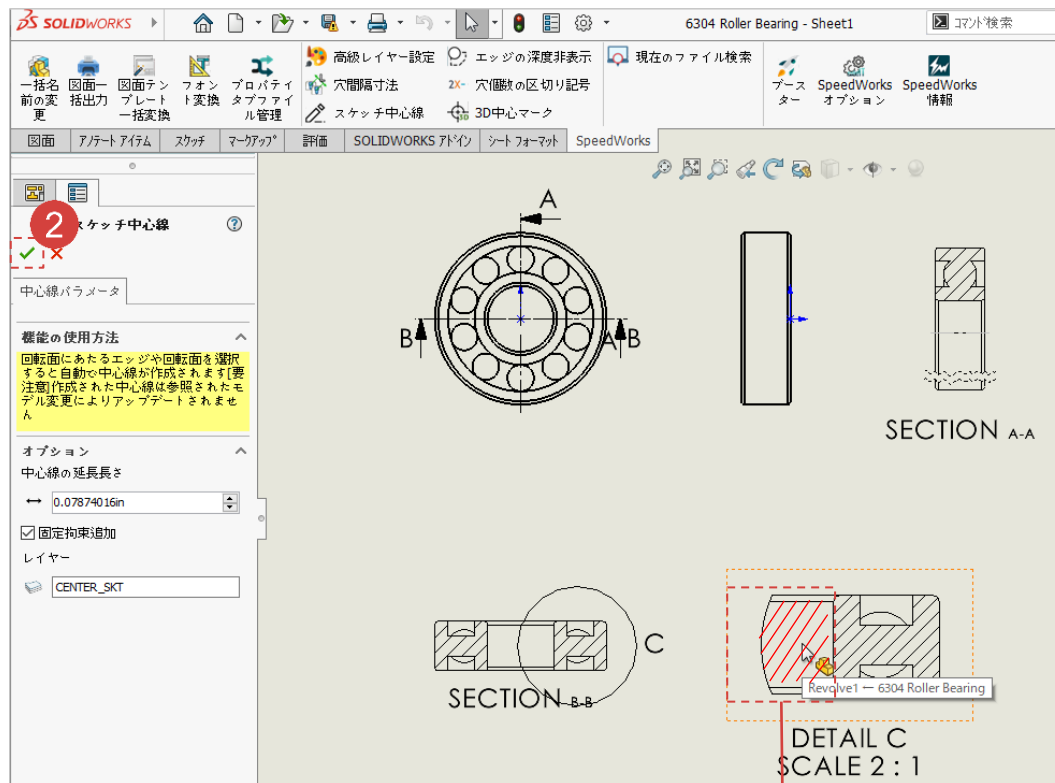
※例題ファイルは、SpeedWorksホームページのお客様サポート
 >資料室 (<http://www.speedworks.info>) でダウンロードできます。

スケッチ中心線_スケッチ中心線の追加

赤色の(1)で表示した部分を説明に沿って直接行います。
 黒の四角形(1)で表示した部分は追加説明及び参考事項です。

① スケッチ中心線が活性化されている状態で、[詳細図C]のベアリング内部のサーフェス(赤色の線が引いてある領域)を押します。クリックと同時にイメージのように**スケッチタイプ**の**中心線**が作成されます。

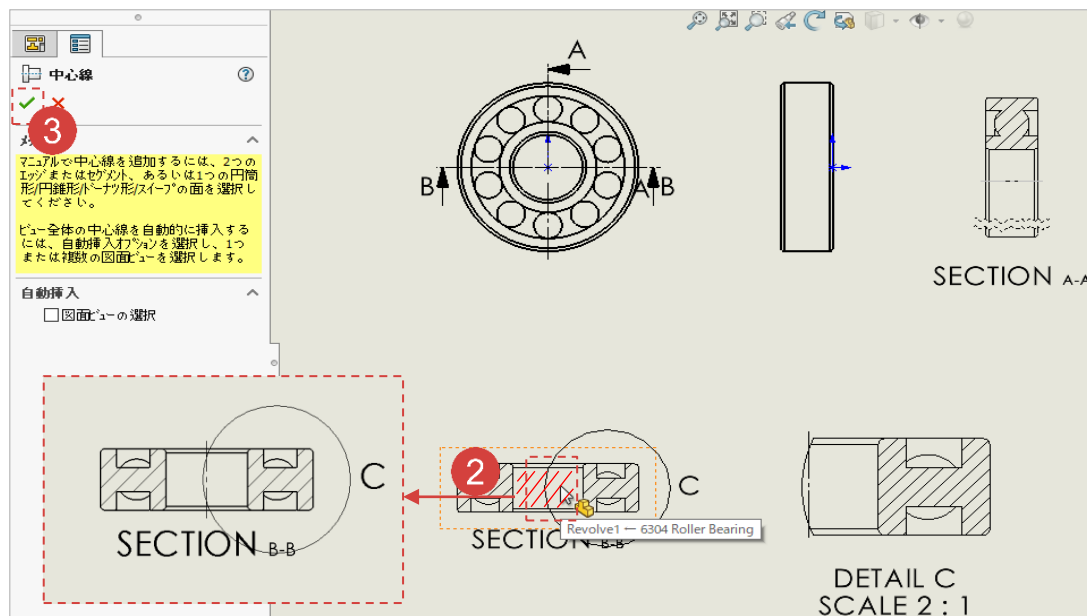
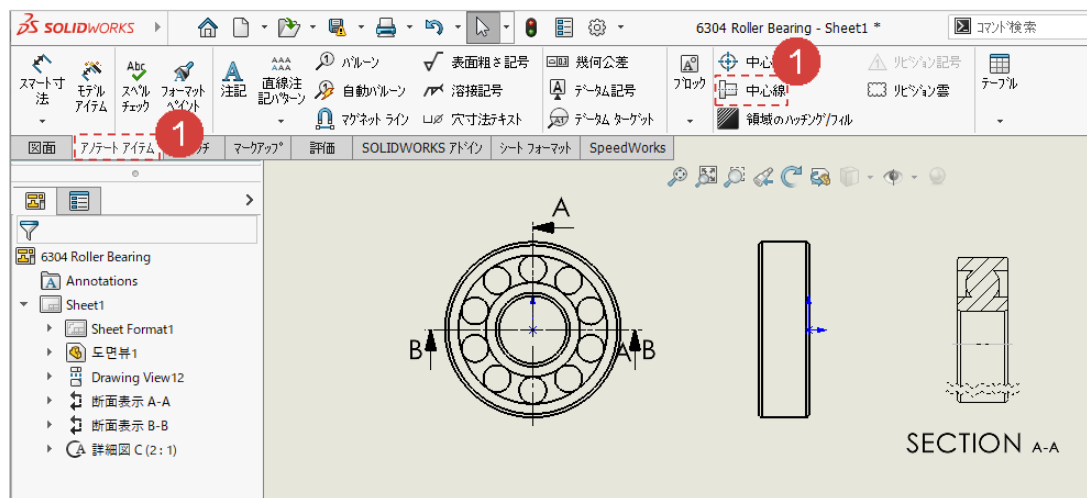
② その後、[OK]を押して[スケッチ中心線]を終了します。



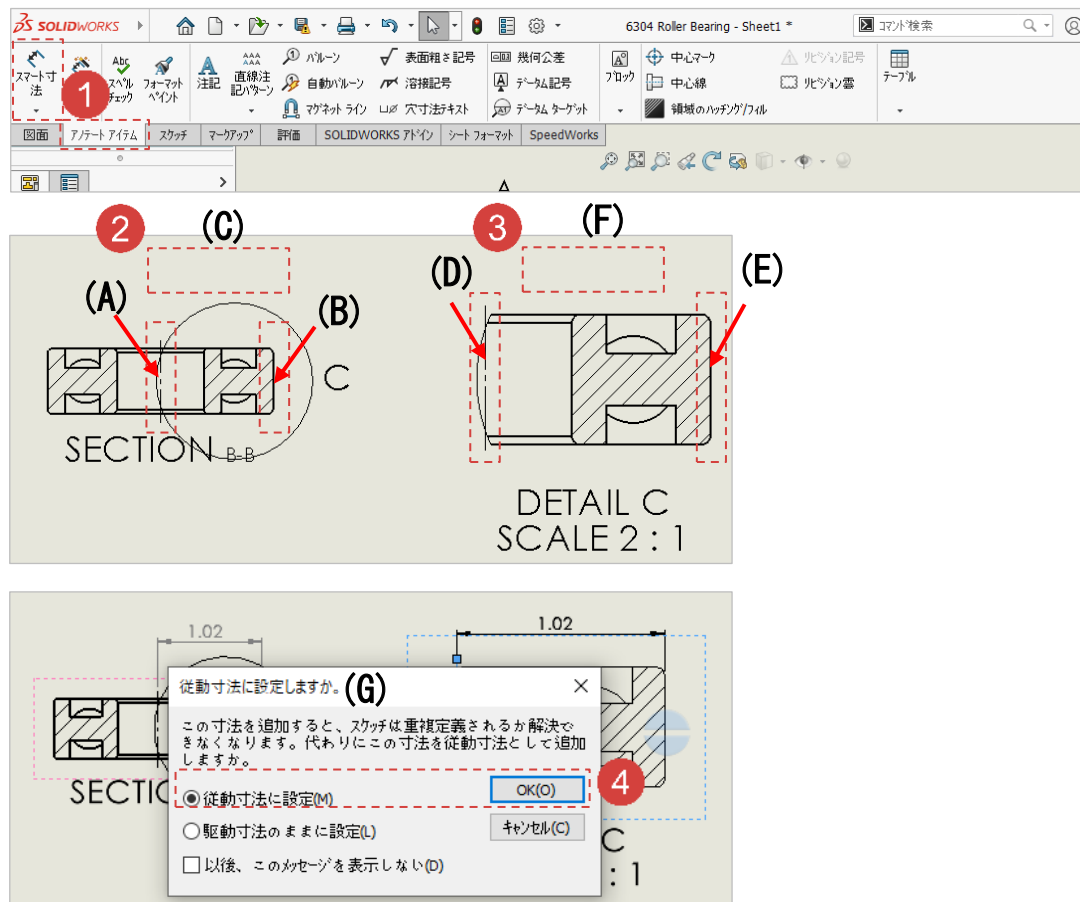
スケッチ中心線_アノテート中心線の追加

赤色の(1)で表示した部分を説明に沿って直接行います。
 黒の四角形(1)で表示した部分は追加説明及び参考事項です。

- ① [アノテートアイテム]タブ- [中心線] をクリックして中心線を活性化します。
- ② [中心線]が活性化されている状態で断面図B(Section View B-B)のベアリング内部のサーフェス(赤色の線が引いてある領域)を押します。クリックと同時にイメージのようにアノテート中心線が追加されます。
- ③ [OK] を押してアノテート中心線の追加機能を終了します。



- ① [アノテートアイテム]タブ-[スマート寸法]をクリックしてスマート寸法の入力状態を活性化します。
- ② SECTION B-Bの(A)で表示した中心線と(B)で表示した右側のエッジを選択すると、両線の間の距離が画面上に開きます。該当寸法が(C)ボックスの中に位置するよう調整します。
- ③ 続いてDETAIL Cに表示した中心線(D)と右側のエッジ(E)を選択すると、同じく両線の間の距離が画面上に開きます。該当の寸法が(F)ボックスの中に位置するよう調整します。
- ④ 二つ目の中心線を入力する際、(G)のように[従動寸法に設定しますか。]のウィンドウが開く場合、[従動寸法に設定]をチェックして[OK]ボタンをクリックします。



スケッチ中心線_相違点の確認

赤色の(1)で表示した部分を説明に沿って直接行います。
黒の四角形(1)で表示した部分は追加説明及び参考事項です。

- 1 アノテートアイテムタイプとスケッチタイプの中心線の相違点を確認するために、寸法を押してフィーチャーマネージャー(Feature Manager)パネルを確認します。
- 2 フィーチャーマネージャーパネルで[引出線]タブを押します。
- 3 [補助線/引出線表示]領域を比較してみると
[半径] (☉) - 現在活性化されている「グレー」、
[直径] (⊙) - 現在非活性化されている「白」、
表示有無の相違点を確認することができます。
- 4 寸法をマウス右クリックした時の表出項目も異なります。

